

社会の事象に目を向ける生徒の育成 ～進路指導の一環として～

宮崎県立高千穂高等学校
講師 佐藤 寿真

1 はじめに

経済を中心としたグローバル化が進んで久しくなる。単にグローバル化が進んだだけでなく、その結果引き起こされる社会の変動は、世界の経済不況や雇用不安といった予測することが困難で混沌とした世界を作り出している。また、それに合わせ情報社会が確固たる存在になってきているのも否めない。ありとあらゆる情報が錯綜している現代である。

こうした変化の激しい、情報の錯綜した現代社会に飛び出して行く子ども達の将来は厳しいものが予想される。この厳しい社会を乗り越え、たくましく生きていくためには、知識のみならず、自ら考え、自ら探求・解決し、それを発信できる総合的な力が必要不可欠となるであろう。生徒達が社会に目を向ける一つのきっかけとして、また、社会情勢を知る具体的な方策を身につけるためのものとして、NIE教育は大きな力になると考える。

2 本校の状況

本校は、生産流通科、経営情報科、普通科と3つの学科からなる総合制の高校である。学科同様、生徒の進路先も就職・短大進学・四年制大学進学・専門学校と多種多様の進路となる。生徒がそれぞれの道を進むにあたって、世の中の様々な情報、状況を知るということは、必要不可欠であることは言うまでもない。しかし、その情報を取得する手段や方法を知っているのかという点においては、少々不安がある。本校の生徒は都市部の生徒と比較し、美術館や博物館、また大型書店など情報を得る場が少ない。そのためか、日頃から社会情勢に目を向けている生徒は少ないようである。図書館の閲覧室に

も常時3紙の新聞を設置しているが、新聞を広げて読む生徒の姿は少ない。読む習慣がないと考えられる。また、寮生活をしている生徒は、テレビを見る時間も限られているため、世の中の動きをほとんど知らないという生徒もいる。テーマを与え、調べ学習をする際にも、新聞や書籍よりもインターネットといった具合に検索しやすいもので手軽に調べようとする傾向が見られた。しかし、変化の激しい現代社会においては、様々な情報を得た上で必要なものを取捨選択し、世の中の動きを理解して生活していく力が必要とされる。それに対応できる力を身につけさせることが大切である。

3 実施概要

本校では過去3年分の新聞を3紙保管しており、高校在学中に起きた出来事等の記事を調べることができる。ただ、膨大な量になるため、その年度の1年分だけを図書室で閲覧できるように設置した。

しかし、社会情勢に興味ที่薄いのか、新聞を手に取り閲覧する生徒が少ないのが現状であっ



〈新聞閲覧の様子〉



た。そこで、まず、新聞を手に取り、世の中の動きに興味を持ち、積極的に新聞を見るようになるためのシステムを作ることを考え、次のようなことを行った。

《1年目》

- ① テーマごとに新聞記事のコピーを廊下に貼り提示する。
- ② SHRで新聞記事を取り上げ、いくつかの質問をする。
- ③ 学級通信で記事を紹介する。
- ④ 授業で学んだ教材の内容と関連する新聞記事を探し、その記事について考えたことをレポートする。

(国語の授業)

今年度は、この内容を踏まえながら、自分の進路に向けての情報収集に役立てるという点につなげて次のようなことを行った。

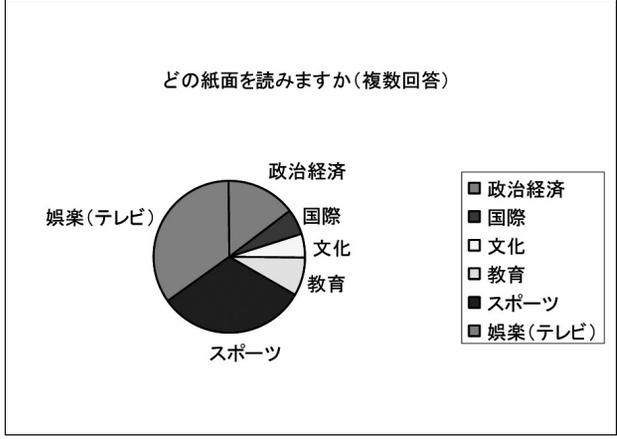
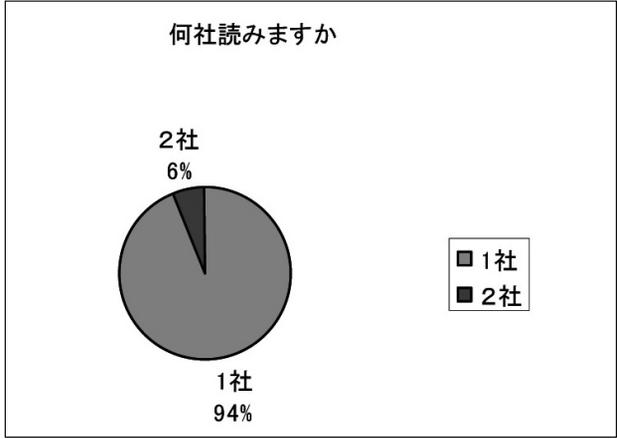
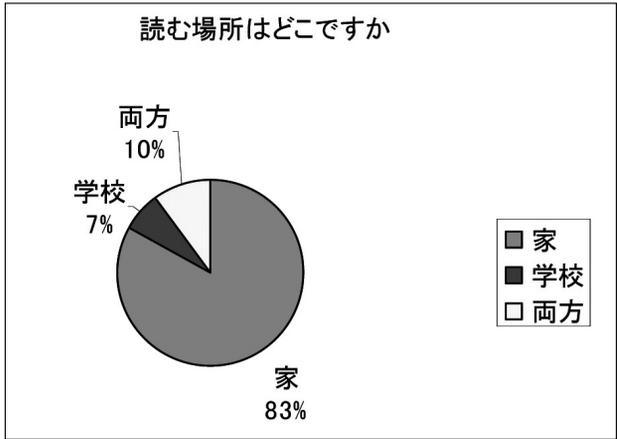
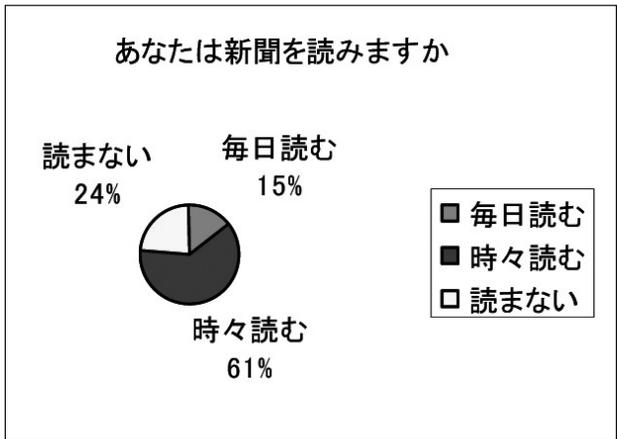
《2年目》

① アンケート調査

まず、対象クラスに新聞に関してどのくらいの興味があるのか等の実態を知るために、簡単なアンケートを行った。その結果は次のようであった



《アンケート用紙》



約8割の生徒は毎日もしくは時々新聞を読むという解答であったが、読む欄に偏りが見られた。やはり娯楽関係の紙面に興味を示し、なかなか社会情勢に目を向けるという段階までには至っていないのが現状であった。また、残りの約2割は全く読まないという解答であり、「面倒くさい」「難しいし、興味がない」「おもしろくなさそう」「文字が多くて読む気にならない」などの理由が挙がっている。中には寮生ということもあり、新聞を読む機会がないという生徒もいるが、学校に設置してある新聞を大いに活用してくれるような手立てを講じると共に、意識付けが必要であると考えた。

② スクラップブック作成

3年生を中心に就職・進学面接のためや小論文の資料ということで、分野別に新聞の記事をスクラップし、スクラップブックを作成した。いつでも、誰もが閲覧できるよう図書館に設置した。また、NIEの新聞も学校のものとは別に展示し、自由に閲覧できる形をとった。



《スクラップブック》



《作業風景》

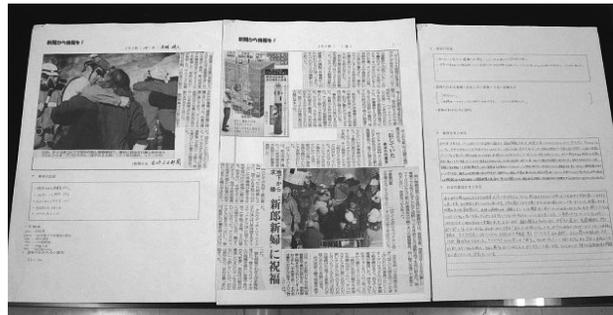
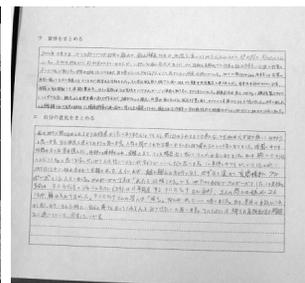
③ 意見発表（国語の授業）

1学期から、スクラップブック作り等を通して、新聞を読む機会を作ってきた。その1年間の振り返り、自分が気になった記事やそれに関する記事を取り上げ、その記事内容について調

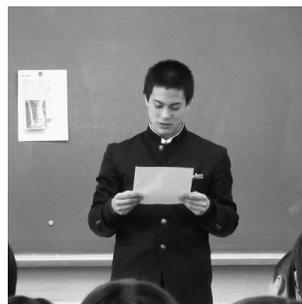
べる学習を行った。そして自分の意見や考えをまとめ、発表する場を設けた。作業から発表までの時間として6時間を設定し行ったこの授業は、今の社会情勢に目を向けるという点において、生徒に意識付けすることができ有意義なものになったと思う。



《調べ学習》



《発表用資料》



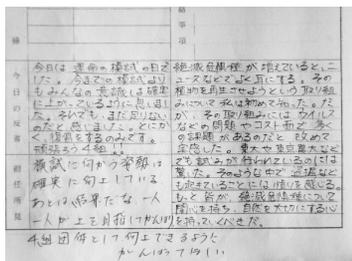
《発表の風景》

④ 学級日誌の利用（2年生のクラス）

2年生のクラスにおいては、自分の意見や考えをわかりやすくまとめるということに視点を置いた指導を行った。毎日、教師側で新聞記事を準備・紹介し、当番制の形でその日の日直が記事について意見や感想を書かせた。最初は戸惑いもあったようだが、回を重ねるごとにしっかりとした意見文が書けるようになった。



《日直日誌
生徒の意見・感想》



《ラミネートされた記事》

4 成果

新聞記事のスクラップや新聞記事を使い自分の意見や考えを発表する授業を通して、これから社会に出て行こうとしている生徒に刺激を与えることができた。

3年生においては、進路試験で最近のニュースについてや、進路に関わる事項が問われることもあり、試験前には真剣に新聞記事を探す姿が見られた。また、他学年ではあったが、いつでも目に触れるようにと廊下に新聞記事を提示することによって、授業時などで社会情勢の話になった時に、嬉々として質問に答える姿も見られるようになった。他にも、新聞社の取材を受けた生徒もあり、新聞社で働く記者の話をいろいろと聞くことができ、社会に目を向けるよい機会となった。

5 課題

今回は3年生を中心に活動を行ってきた。言うまでもなく3年生は自分の進路実現のために、昼休み、放課後と新聞を大いに活用し、情報を得ようとしている姿が多々見られた。しかし、進路決定後は新聞を活用する場面が減少してきた。また、図書館に来る1・2年生で新聞に目を通していている生徒はほとんどいない状態であった。NIE教育推進指定校であるかどうかに関わらず、身近な情報紙、新聞などを活用し、世の中の動きを敏感に感じとり、しっかりと物事を考え・判断できる生徒の育成が今後の課題となるであろう。

6 おわりに

今日の日覚ましい発達を遂げた情報社会において、情報伝達手段は多様化、高速化し、メディアを自由自在に使い分けられることができるようになった。洪水のようにあふれかえる情報の中で生きていく子ども達が、自分を見失い、情報に踊らされることは十分に考えられることである。そうならないためにも、自分の意見をしっかりもち、物事の善し悪しの判断ができる力や知識を養っていくことが我々に課せられた課題であろう。

NIE教育推進指定校になったことで、新聞を授業やホームルームに意図的に取り入れ、日頃から社会の情勢に目を向けるよう、意識付けすることができた。また、教科で学んだことと現代社会にとの結びつきを考える授業や、自分で新聞記事を探し、自分の意見を発表する授業は、学習における興味・関心を高めるとともに、これからの自分の将来を見据え、どう生きるべきか自分なりに考えようとする良い機会になったと考える。